

# 被災者の継続支援訴え

## 比南部地震 AMDA活動報告

フィリピンでの支援活動について報告する祖母井さん（左）と真治さん



国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）は23日、フィリピン南部ミンダナオ島沖で8日に発生した地震で、被災地へ派遣していた調整員2人の活動報告会を本部事務所で開き、継続支援の必要性を訴えた。

職員の祖母井利昭さん（55）＝岡山市＝と、同国出身で外国語指導助手（ALT）の真治スサンさん（47）＝総社市＝は18～21日、

被害が大きいミンダナオ島で活動。避難所や家庭を回り、食料品、せつけんやアルコールといった衛生用品、建築資材を配布した。

祖母井さんは余震におびえる人が多く、道路事情で支援の格差が広がっていると「物資の援助や心のケアの継続が必要」と説明。真治さんは「多くの人に関心を持ってほしい」と呼びかけた。

AMDAによると21日現在、死者は77人、負傷者は1339人になるという。

（恒川香花）